



復刊第159号
題字 吉岡 彌生

巻頭言

副会長 石原 幸子

札幌の総会も無事終わり、ほっと一息ついたところです。東京は梅雨入りし、むし暑い日が続いております。会員の皆さまにはお健やかにお過ごしのこととぞんじます。先の見えない日本の経済にも何か少し明るさが見えてきたような気がいたします。コソボの問題もやっと決着がつき、NATOの顔も立ち、オルブライト長官の顔にも笑みが見えました。NATOの先頭に立ち米国の威信をせおってゆつさゆつと歩く堂々たる勇姿を見ますとき、あの戦乱の中に女性を派遣するアメリカの勇断に感心いたしました。日本の女性政治家に期待するのは遠い日になるのでしょうか？

さて私どもの医業も年々厳しさを増し、理想的といわれた老人医療も見直され、お金のかかる介護保険へ

と変わりつつあります。二十一世紀にはさらに老人が増加し、2050年には総人口の32・3%に達するといわれております。逆に少子化はますます進行し、日本経済衰退の恐れありと警告する経済学者もおります。平成元年、日本の合計特殊出生率は1・57と史上最低となり、これを機に少子化問題がクローズアップされました。しかしながらその後も少子化は進み、現在1・37となっており、政府および日本医師会は二十一世紀の少子化を苦慮し、専門委員会を設置いたしました。私も会長の命を受け、日本医師会の「少子化対策委員会」に出席しております。さすがは日本医師会と感嘆する各界のスタッフを集め、叡智を結集して立派な答申案をまとめましたが、そのなかで私を感じましたことは、「二十一世紀の主役は女性

である」ということです。経済、労働、教育、文化、すべてに重要な役割を担っているのは女性であるということです。働く女性のサポート、労働力の不足は女性に、子育ての支援、保育の改善、結婚、出産の支援対策、すべてが女性の肩にかかっているという印象を強く持ちました。人口問題研究所が現状をふまえて試算したところによりますと、今一億二五〇〇万人の人口は百年で半減二五〇〇年には三〇万人、三五〇〇年には日本人はたった一人になるという肌寒い結果を算出しました。しかしながら1・37という数値は、すでに年少人口の割合が老年人口を下回っており、若い労働力を期待することは現在も不可能に近いといっており、人口減少による経済力の低下は日本の発展を阻害すると結論しております。これをポジティブに人口が少なくなれば人々は豊かに暮らせる、量より質だと考える人もいます。今日、私どもが日常診療のなかで慢性肝炎の患者に対し、二十年、三十年後の治療を行っているという自負など小さなことで、時代はどんどん先に進んでおります。有識者は百年後、千年後の日本の将来について考えている事実に感動致しました。二十一世紀はいかなる時代がくるか分かりませんが、私どもは日本人の知性と努力の遺伝子が脈々と受け継がれ、きつとよい時代を作ってゆくことを信じて、きたるべき二十一世紀を迎えたいと思っております。

もくじ

巻頭言……………石原 幸子 (1)

〔第44回日本女医学会定時総会〕

第44回定時総会開く(定時総会議事録)……………橋本 葉子 (2)

第44回日本女医学会総会挨拶……………宮川 幸子 (3)

吉岡弥生賞を受賞して……………久保田くら (5)

吉岡弥生賞をいただく……………須藤 昭子 (5)

荻野吟子賞を受賞して……………水田 祥代 (6)

学術研究助成を授与されて……………奥谷 文乃 (6)

学術研究助成を授与されて……………堀口 貞子 (6)

地域医療奉仕への助成を受けて……………斯波 憲子 (8)

第44回定時総会を担当して……………今井 蓉子 (9)

渡辺淳一先生講演会……………甲子万里子 (9)

小樽半日観光に参加して……………濱田 啓子 (10)

小樽旅行に参加して……………鈴木ハルエ (10)

道南コースを旅して……………中濱 昌子 (10)

道東コースに参加して……………今井 蓉子 (11)

ゴルフコンペに参加して……………中山真知子 (12)

定時総会に出席して思うこと……………宮原 茂子 (12)

全国支部長会議報告…………… (13)

※ MWIA副会長(西太平洋地域担当)……………平敷 淳子 (13)

Maxwell先生を囲んで…………… (13)

「女性医師の働く環境の改善と支援体制の整備拡充を……………橋本 葉子 (14)

求める要望書」を提出して…………… (14)

〔日本人ヘルー移住百周年記念事業〕…………… (14)

第9回国際医学シンポジウムの講演者として……………平敷 淳子 (14)

移住百周年記念行事に参加して……………橋本 葉子 (15)

病院建設定礎式と百周年記念中央祝典に参加して……………大坪 公子 (16)

〔私の大学〕札幌医科大学……………藤井 美穂 (17)

・新医学用語豆辞典…………… (9)

・理事会議事録(2月、3月)…………… (17)

・評議員会議事録…………… (18)

・会員動静…………… (18)

・編集後記…………… (18)

第44回日本女医学会定時総会

とき・平成11年5月21日
ところ・北海道・ロイトン札幌

第44回定時総会開く

働く女性医師の環境整備に全力を

第44回定時総会は平成11年5月21日(土)、北海道のロイトン札幌で開かれ、会長橋本葉子先生のご挨拶により幕を開けました。
平成10年度会務報告 会員二千八百八十四名、平成10年度入会者七十六名(新卒入会者十五名を含む)、退会者百四十八名(自然退会者九十四名を含む)があり、会員数が減少する傾向がみられます。今後の問題点といえるでしょう。評議員及び予備評議員が紹介されましたが、未決定の地域もあり、組織の強化を図る必要が迫られています。

平成10年度会費納入状況 納入率85%で昨年とほぼ同率でした。事業部の報告では、平成11年3月31日現在年金加入者は、積立中二百三十三名(二千六百三十四口)、給付中二百一十名(二千二百三十七口)で、預り金総額十五億二千二百三十七万六千七百一十円です。
事業 平成10年度一般会計収支計算書では、事業費決算額は千三百五十三万八千五百二十九円です。
管理費決算額 千四百四十五万六千八百円です。

百周年記念事業 2002年5月18日(土)京王プラザホテルにおいて現役員と次期役員により運営されること説明されました。そのロゴマークを会員より募集します。
次期及び次々期総会開催地 12年は東京、13年は佐賀県に決定。
表彰 吉岡弥生賞(医学部門)に宮川幸子会員、社会部門に久保田くら会員、荻野吟子賞(須藤昭子会員)。

平成10年度事業計画案 庶務部(会員増加推進、吉岡弥生賞を社会の部、医学の部)に授与する。学術部(研究助成と学術講演研修会を年数回行なう。事業部(公衆衛生活動、支部助成、荻野吟子賞、年金、健康記事の掲載協力を行なう。渉外部(国内各団体との交流、国際交流、他団体との公開講演会の開催、国連NGO国内婦人委員会として活動していく。広報部(機関紙を年四回発行する。)
以上の事業が承認されました。
平成11年度一般会計予算 ますます厳しくなる財政状況を鑑み、事業費・管理費を切り詰め、三千五百五十四万四千円、10年度と比べ二百一十一万円減額となりました。日本女医学会年金については政府援助もあることなので、静観し現方式を続行することとなりました。

環境が及ぼす人の健康へのリスクを身近なところで考えて行かねばなりません。生活の利便さを追及するあまり、生物に悪影響を及ぼしています。特に生殖器等にダメージを与えている問題は深刻です。と、危機感を投げかける意味深い講演でした。
母性保護委員会報告 北海道の女性

社団法人日本女医学会定時総会議事録
日時・平成11年5月22日(土)
場所・ロイトン札幌
(札幌市中央区北一条西11丁目)
午後1時3分開会
司会 鹿田 儀子

社団法人日本女医学会定時総会議事録
出席者 一〇九名
記名委任数 六九九名
白紙委任数 三五六名
以上のとおり日本女医学会定款第27条の定数(四三八名)に達し、総会が成立する旨の報告あり開会を宣言す。
会長挨拶 橋本 葉子
黙禱
報告
一、会務および事業報告 宮原茂子
配布済みの資料にもつき報告
二、平成10年度特別会計報告 青井 禮子
吉岡弥生賞基金会計
国際女医学会記念事業基金会計
年金会計
以上について配布済みの資料にもつき報告
三、ナショナルコーディネーター報告

国内および国際交流
広報部 石原 幸子
機関紙の発行 西嶋 攝子
研究助成 学術研修
以上原案どおり可決
第三号議案
平成11年度一般会計収支予算案
原案どおり可決 栗原 久子
第四号議案
百周年記念事業の件 加藤 竺子
原案どおり可決
第五号議案
次期および次々期総会開催地

議事録署名人選出
議長 橋本葉子(平敷淳子代理)
副議長 齋藤歌子、佐藤秩子、斯波憲子
(議長団、議長団席に着席)
中山年子、渡辺政子

議事
第一号議案
(1)平成11年度一般会計収支計算書
配布済みの資料にもつき報告
原案どおり可決
(2)剰余金処分案 川田喜代子
次期会計(繰り越し)を原案どおり可決
川田喜代子
会計監査報告 中濱 昌子
監査の結果適法かつ正確であることを認める旨の報告あり。
第二号議案
平成11年度事業計画案
庶務部 石原 幸子
会員増加推進 吉岡弥生賞 石原 幸子
事業部 公衆衛生活動 石原 幸子
支部助成 荻野吟子賞
年金 社会保険新報社月刊「いきいき」への原稿協力について 渉外部 石原 幸子

次期開催地 東京 橋本 葉子
次々期開催地 佐賀県 原案どおり可決
表彰
(1)吉岡弥生賞受賞者 宮川 幸子・久保田くら
(2)荻野吟子賞 須藤 昭子
(3)学術研究助成金授与者 水田 祥代・奥谷 文乃
(4)地域医療奉仕活動への助成 閉会の辞 「マザーグースの会」 橋川ふさ子
午後2時56分閉会

定時総会議事録

第44回日本女医学会総会挨拶

会長 橋本葉子

性医師の出産・育児に関する実態調査が報告されました。
日本女医学会北海道支部母性保護委員会委員長(室蘭工業大学健康管理センター助教)・斎藤康子
発表者 藤井美穂(札幌医科大学医学部産婦人科学講座講師)
座長 関寺美起恵(北海道支部理事)

報告書・アンケートが冊子として配布され、行き届いた気配りに感銘を受けました。
懇親会 午後6時30分より来賓をお迎えして、海の幸豊かな会食となりました。

りました。アトラクションはフルーツバスケットによる群舞。そのダイナミックな踊りは見ている者にリズムを誘います。医師・医学生で構成された弦楽合奏に感動しました。
翌日は、三手のコースに別れて北海道観光をさせていただきました。またロシアアンショウも好評で九十名の参加がありました。
すべてに濃やかな心配りが溢れた歓迎をうけてありがたく、心より感謝しあげます。
(広報部 村田 郁)

木々が一斉に芽吹き、特にライラックの花が満開の北海道札幌において、日本女医学会百年の歴史の中で、初めて定時総会(第44回)を開催することができました。これはひとえに北海道支部長斯波先生のご指導の下、北海道支部会員全員が一致団結して準備を下さったからと、私も役員一同、心より感謝申し上げます。昨晩は、渡辺淳一先生から「男女の機微」についてのユーモアを交えてのご講演を拝聴し、その後も歌に踊りにと非常に盛りあがった前夜祭のひとときを過ごさせていただきました。

きました。本日は北大医学部最初の女性教授になられた岸玲子先生から、現在、緊急課題になっております環境ホルモンに関するたいへん興味深い講演をお聞かせいただけるとのこと、北海道支部の企画力のすばらしさに改めて敬意を表するものであります。
去る4月2日〜4日まで、東京国際フォーラムで第25回日本医学会総会が開催されましたが、第1回総会は明治35年(西暦1902年)に日本聯合医学会として開かれたことを、恥ずかしいことですが、私は今回初

めて知りました。私は生理学を専攻いたしましたので、現役時代には医学会総会にはあまり関心を持っておりませんでした。三日間総会に出席いたしましたのも今回が初めてでございます。日本女医学会は、奇しくも医学界と同じ年に発足したことに改めて経年の重みを感じました。医学界と異なり、天皇家・皇太后陛下のご臨席を賜わり、天皇陛下よりお言葉を頂戴いたしました。その中で、
「今世紀後半の医学は、科学技術の発達と相まって病気の早期発見や有効な治療法の開発を可能にし、今日わが国の人々はこの恩恵に浴し、今世紀前半には考えられなかったような健康で幸せな生活を享受することが出来るようになりました。しかし、このような進歩には光と影が内包されており、誠に残念なことに、公害や薬害により健康に重大な影響を受けた人々があつたこともまた事実であります。今後、進歩とともにまたらされる危険に對し、これを予見し、常に注意深く対応していくことが、医学界および関係行政にとつての大きな課題となり、責任となつていくことと思ひます。」
と述べられました。この天皇陛下のお言葉を私は格段の重みを持って受け止めました。私ども医療に携わる者にとつて21世紀の医療のあり方を示していただいたものと、肝に銘じて次第であります。

一年が経過いたしました。通常の活動以外で特に最近行いましたことを少しご紹介したいと思います。
①働く女性医師の環境整備に関する要望書を提出致しました。昨年の総会の時に、「女医の環境整備小委員会」を発足させたことをご報告いたしました。委員を数回開きまして、「女性医師の働く環境の改善と支援体制の整備」を求め、要望書を作成し、関係部署に提出いたしました。全文は日本女医学会誌4月25日発行158号に掲載いたしましたので、すでにお読みいただいていることと存じますが、要旨は、
(1)男女共同参画を理念とする医学教育、研究並びに医療体制の推進
(2)医師の職場における男女雇用

機会均等法、労働基準法、育児・介護休業法等の法制度の遵守徹底
(3)女性医師の特殊性、専門性を勘案した働く環境支援体制の整備拡充の早期実現
を要望したものであります。
4月2日の午後、松井ひろみ理事のお手配で、小淵総理大臣、野中官房長官、宮下厚生大臣、藤井労働省女性局長、森自民党幹事長および池田自民党政調会長に直接お会いし、要望書を提出いたしました。小淵総理大臣、野中官房長官、宮下厚生大臣、藤井労働省女性局長にお会いしましたときには、自民党女性局長の狩野 安参議院議員および自民党の大野つや参議院議員が同行して下さいましたので、一層私どもの要望を

親身に聞いていただけました。お二人の参議院議員が同行して下さることは当日まで分かりませんでした。この場で、本当にうれしく感謝申し上げておきます。お会いいただいた方々は、働く女性の環境、特に育児環境の整備充実がすぐにも実現しなければならぬという共通の認識を持っておられ、私どもの要望書を重要なものとして受け止めていただけたと認識しております。



実は3月30日に野中官房長官が他の会議に出席のご予定と承り、その会に松井理事が出席なさるとのこと、野中官房長官宛の要望書を先に持って行って頂きました。しかし、当日は秘書の方のみがお見えになられた由、一応秘書の方に要望書をお渡しなさったそうです。4月2日に改めてお会いすることになりましたが、私どもがお伺いいたしましたときには、小淵総理のお手元にすでに要望書のコピーが届けられており、私はびっくりいたしました。また、宮下厚生大臣は日本の女性医師の年次別統計をお手元に取り寄せておられ、三十代の女性医師は何人ですかとおっしゃられたのにもびっくりいたしました。池田政調会長はあまりお金のかからない具体策が欲しいとおっしゃってられました。藤井女性局長は労働省として「ファミリィ・サポート・センター」を充足させ、働く女性の支援活動を始められたこととお知らせくださいました。その他、政府・自民党の関係部署、大学医学部長、医科大学学長、医学部・医科大学病院長、日本医師会長、東京都医師会長、各県医師会長には郵送いたしました。計二〇九通だったそうです。

男女雇用機会均等法も実施されましたので、要望書の提出が遅くなりましたが、私どもの要望書は少子化対策の一環として受け止めていただけたものと思っております。今後は特に働く女性のための育児環境整備の具体策を検討しなければと考えており、環境整備小委員会の活動を期待しているところであります。育児環境整備の具体策は地域によりそれぞれ異なることが予想されます。皆様の地域ではどうしたらよろしいか、それぞれご意見や対策を本部事務局にお寄せいただきたいと思います。6月27日(日)に環境整備小委員会を開く予定にしておりますので、それまでにご意見を頂戴できればなお幸甚に存じます。

慶応大学でのサマースクールや腹膜透析研究会などから問い合わせがきております。

③三越デパート本店における医学研究会サテライト展示会への協力を致しました。3月30日〜4月4日まで三越日本橋本店において「身近な健康とくすりの歴史展」が開催されることになり、健康モジュールゾーンで、女性の健康プラザでの講演会、日本の女医第一号萩野吟子展、吉岡弥生展、女性のウェルエージングとハリキョウ展が開催されました。これは日本女医学会および性と健康を考える女性専門家の協力で開催され、好評でした。健康プラザ講演会は合計十八名の先生方にいろいろなテーマでお話しいただきました。萩野吟子展は北海道支部のご協力によつたものと伺っております。

④2002年の日本女医学会百周年記念事業について準備を始めました。百周年記念事業委員会を作りましたので、これから具体案を検討いたしますが、式典・祝賀会は2002年5月18日(土)、京王プラザホテルで行いたいと考えております。日本女医学会誌には18日と19日の二日間評議員会及び総会を含めて考えていることが載っておりますが、その後一日にすることに變更いたしました。詳細は加藤副会長からお話があることと存じます。

⑤2004年国際女医学会議誘致の準備を始めました。2001年に行われますシドニーでの国際会議において、2004年の国際女医学会議開催国が決定することになっております。日本女医学会百周年の記念事業の一つとして2004年の国際女医学会議を日本に誘致することは、昨年の総会で認め頂いておりますが、準備の一つとして、日本で行う場合の開催都市を決定する準備を始めました。六ヶ所のコンベンション・ビューローの方にプレゼンテーションをお願いいたしました。海外・国内からの交通の便、総経費・観光の便などそれぞれ一長一短ありますので、さらに検討したいと考えております。ところが、日医ニュース第905号に「2004年、世界医師会総会を日本で開催」という記事が出てしまいました。現在は内定ですが、今秋イスラエルで開かれる総会で正式決定されることと見られます。また、開催時期、開催都市は明らかになっておりませんが、世界医師会総会と国際女医学会議が同年に開催されるとなると、いろいろな問題が起って参りますので、2004年開催の国際女医学会議の準備は始めましたが、今後どうするか、検討したいと考えております。

本年度は、年間を通して決まっている事業以外に、国際女医学会議誘致を含めた百周年記念事業の計画、働く女性のための環境整備の具体策、労働省の「働く女性の仕事と未来館」への協力、日本人ペルー移住百周年記念事業の支援などに力を注ぎたいと考えております。

労働省の「働く女性の仕事と未来館」は、只今東京の田町駅前ビルを建設中で、10月ごろオープン予定のものであります。その中に働く女性および働きたい女性の支援活動の一環として、「未来館相談室」を設けることを計画しております。これは財団法人婦人少年協会が労働省からの委託で準備を進めているもので、相談は主に電話相談の総合相談と面接相談の特別相談を考へておられ、特別相談の中に「からだの健康相談」があり、その相談員(未来館カウンセラー)の推薦依頼が日本女医学会にてあります。このような事業にも積極的に協力したいと考えております。

また、本年は日本人ペルー移住百周年に当たりますので、いろいろな記念事業が計画実行されております。以前、日本女医学会誌にも書きましたが、目玉となる事業は記念病院の建設であります。日本では百周年記念事業委員会が昨年の7月に発足し、委員長に丸紅相談役の春名和夫氏、名誉会長に日本ペルー議員連盟会長の海部俊樹先生が就任し、私も委員になって、今日に至っております。その間、一般からの寄付の募集を致しました。日本女医学会としてもこの寄付を応援しようと考へましたが、今の経済状態では無理であるとの判断で、会としての募集は致しませんでした。去る5月20日に外務省主催で、百周年記念事業名誉総裁の紀宮様のご臨席を仰いでフジモリ大統領を

囲む昼食会が開かれました。私も招待されましたので出席いたしました。春名会長の挨拶の中で、一般寄付は予想より順調であるとのこととございました。この記念病院は地下二階、地上十三階の病院になる予定であります。何年かかっても完成するとの意気込みです。私も5月27日にペルーへ行き、28日からの記念行事に参加いたしますが、5月30日に病院建設式が行われます。このとき、何かdonationを言われておりますが、何にしたらよろしいのかわかりませんので、リマで、Dr. Kunjoshiと話合せてからにしたいと考えております。しかし、ペルー協会の中では、物的援助だけではなく、病院で働く看護婦さんの問題がこれから大きくなるのではないかと考へておられるようですので、医療人の教育などの支援を考へるのも日本の

女医学会の支援の方向なのではないかと考へております。

これからは、日本女医学会も一般社会に認められるような社会活動を徐々に増やして行かなければならないと考えておりますので、皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。シドニーで行われます第25回国際女医学会議は、2001年4月21日(土)〜24日(火)まで、ヒルトンホテルをメイン会場として開催予定になっており、テーマは「Medicine in a Multicultural World 多文化社会に於ける医療」となっております。サイキウラーはまだ参りませんが、届き次第お知らせしたいと存じます。では、本総会が無事終了いたしますよう、よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

みなおしたり、ちようどお送り頂いた大原一枝著「集塵抄」を拝読致しました。百年も前に二十九歳で東京女医学校を創立された吉岡彌生先生の偉大さと、その後についてこれた諸先生方の御業績に改めて身のひきしまる思いでした。

受賞の対象となりましたのは、「新生児ループスと母親由来の抗SSA」のSSA抗体との関連の発見(1981)、およびそれに引き続く膠原病の研究です。新生児ループスは、皮膚の紅斑と先天性心ブロックを二大症状とする新生児の多臓器疾患で、特に心ブロックは児の生命予後を左右します。膠原病女性患者の妊娠・出産の管理、胎児異常の原因検索、さらに最近では、母体へのステロイド投与

の必要性をみるために、抗SSA/SSB抗体のプロファイルが参考にされるようになってきたようです。しかし新生児ループス(とくに心ブロック)の子知と予防の方法を確立するにはまだまだ多数の症例の累積が必要と思われまます。

最近の遺伝子レベルの研究は私も臨床家にとって追従不可能な専門分野になってしまいました。日常診療の中でそれぞれの患者さんをつくり診て、診断や治療に結びつくsomething newを発見するのは臨床家でなければできないことです。吉岡弥生賞受賞の名に恥じないよう、今後も少しずつでも医学の進歩に貢献できるように心がけたい所存です。

各賞と研究助成

▼吉岡弥生賞を受賞して



奈良支部 宮川幸子

このたび女性医師として最高の賞である吉岡弥生賞を頂き、大変光栄に存じます。ご推薦いただいた大原一枝先生をはじめ、日本女医学会の関

係各位の先生方に心からお礼を申し上げます。受賞決定の通知を頂きましたから、大森安恵著「彼岸花の鎮魂歌」を読



東女医学内支部 久保田くら

▼吉岡弥生賞をいただく

このたび橋本葉子会長はじめ東京支部連合会会長齋藤歌子さんおよびその他ご関係各位のおかげで吉岡弥生賞をいただき、ありがたく厚くお礼申し上げます。

受賞の対象としての社会福祉法人至誠会は社団法人至誠会が設立したものであります。まず仕事を持つ女性のために保育園を設立し、母校の若い方の研究の手伝いと、地域社会

の方々にお役にたつことを目的とし、すでに二十五年を経過いたしました。一昨年5月上旬天皇皇后両陛下の行幸啓を仰ぎました次第でございます。このたびの受賞も当法人の関係者一同の真心とあたたかいご後援のおかげにほかならぬことと存じ、頂戴いたしました金一封を社会福祉法人至誠会に寄付いたし、慶びを皆さんとともに分かち合いました。ありがたう

「ございました。私は吉岡先生(ご健健)にご活躍のころ、多分昭和29年ごろかと存じますが、東西の会員が東京日比谷の松本楼にございました記念すべき会合に出席いたしました。大先輩のお姿をまぶしく拝見いたしました。三神美和会長のごころ大阪における万国博覧会に会員が会場の診療所に役務提供の際、後方部隊に属し、準備等会員の宿舎、食事、会場に毎日勤める乗物等の雑務のことを思い出し、なつかしいこととす。日本に招致した国際女医学会にも関与しました。また福田幹子先生著『日本女医史』に現代史の追補をいたしました後に理事を辞任いたしました。ただし日本女医学会からおほめをいただいたのは今回がはじめてでございます。」

社会福祉法人至誠会もより一層の努力をいたすつもりでございます。なお社団法人日本女医学会におきましては橋本会長の進歩的な主義をもつて、他に比類のないよりよい会に発展されるよう祈りあげ、感謝の言葉にさせていただきます。ありがとうございます。

▼荻野吟子賞を受賞して



都下東支部 須藤 昭子

荻野吟子賞をいただく栄誉にあずかりまして、本当に嬉しくありがたく思っております。実をいいますと私は卒業後間もなく修道会に入会しまして、二十五年前から海外に出ていました。それで荻野吟子先生のお名前すら知らないです。ごして思いました。これはたいへんなことだと思いい、今年帰ってまいりました時に、渡辺淳一先生のお書きになりました「花埋み」をいただきまして一気に読みました。すごく感激しました。吟子先生のすごい勢い、何とないですか、バイオニア精神に感動いたしました。

また広報部の先生に頼まれて

ハイチでの私の経験を「ハイチ便り」として書くことになりましたので、どうぞお読みください。(次号より)

▼学術研究助成を授与されて



福岡支部 水田 祥代

このたび、日本女医学会学術研究助成をいただきました大変光栄に存じます。ありがとうございます。

神経芽腫は小児固形悪性腫瘍のなかでもっとも頻度が高い腫瘍です。一歳以上で発見されると進行症例が多く、予後不良な疾患であるため、一歳未満における早期発見を目的として、神経芽腫の約70%が産生するカテコールアミンの代謝産物である尿中VMA、HVAの検査によるマススクリーニング(マス)が全国的に1985年から開始されました。マス症例の生存率は98%と非常に良好ですが、症例の増加に伴い、予後不良のマス症例の報告も散見されるようになっており、予後良好な群との区別が重要と思われま。

現在、病変の広がり、転移の有無は主に画像診断、腫瘍マーカー、骨髄穿刺の組織学的検査により検索されていますが、これらに変化が現われる前の段階で、骨髄、末梢血中の微小腫瘍病変の検出及びその評価が確立すれば、転移の早期発見、予後

荻野吟子賞という素晴らしい賞をいただきました。ほんとうにありがとうございます。

今回の研究では早期例の多いマス症例に研究対象を絞り、初診時の微小腫瘍病変の予後予因子としての有用性を検討することを主眼としております。

この研究は、将来的にはマス症例のうち、より積極的に治療の対象となり得る症例を診断するための基準作りにつながる意義ある研究と考えております。

今回、これらの研究内容に対してご理解をいただきましたこと本当にありがたく心から感謝するとともに学術助成金授与にふさわしい研究成果があげられますように精一杯努力する所存でございます。

▼学術研究助成を授与されて



高知支部 奥谷 文乃

このたび「発育に伴うおのの嗜好性の変化における神経機構に関する研究」に対し、学術研究助成をいただき、心より深くお礼申しあげます。私は基礎医学である生理学教室に所属しながら、おのの学習のメカニズムに関して行動薬理学的に研究しております。具体的には、未開眼の幼若ラットにおい刺激と体性感覚刺激を対提示することによる、においに対する古典的条件付けモデルを基本として用いております。そしてその学習行動に対して、嗅球内への薬物の直接注入が及ぼす影響を観察しております。

この場合におのの嗜好性とは、対提示される体性感覚刺激の内容によって、たとえば母性行動をまねた撫でるような刺激あるいは電撃により、それぞれ「においに近寄る」嗜

好学習または「においから逃げる」嫌悪学習が成立することを意味してあります。しかしこれまでわれわれが行った研究では、嗅球内に直接注入された bicuculline (抑制性伝達物質 GABA) セプターのアンタゴニスト) によって、嗅球のにおい伝達ニューロンを活性化させると、体性感覚刺激を提示することなく、におい刺激

単独で学習が成立し、しかもその活性化の程度により、学習内容が嗜好あるいは嫌悪と変化することが明らかにになりました。

同様な現象は幼若ラットの発達期の変化としても観察されています。極めて幼若な生後五日以内のラットでは嫌悪刺激である電撃を対提示したにもかかわらず、においに対する

※各賞授賞者と授賞理由※

吉岡弥生賞

●医学に貢献した賞 宮川 幸子

1966年大阪大学医学部を卒業後、一貫して難病である膠原病や新生児エリテマトーデスなどの皮膚科領域並びに臓器障害の研究に従事し多大の業績を挙げた。特に新生児エリテマトーデスの心ブロック予知の可能性に発展する研究として期待される。この難病に対する基礎的および臨床的研究活動に対しての受賞。

●社会に貢献した賞 久保田くら

1981年に社会福祉法人至誠会理事長に就任され保育園の運営に携わり、働く女性の育児環境整備に力を注いだ。1991年には午後7時までの1993年には午後10時までの延長保育を実施し、特に女性研究者の研究活動に大いに寄与した。この働く女性への支援活動に対しての受賞。

荻野吟子賞

須藤 昭子

1949年大阪女子高等医学専門学校を卒業後、1953年クリストリア宣教修道会に入会し、結核撲滅のため意欲的に活動した。1976年から世界最貧国の一つであるハイチ共和国においての結核患者および患者救済のための孤軍奮闘している。この社会、経済的情勢の厳しいハイチ共和国での献身的医療および救済活動に対しての受賞。

嗜好学習が成立します。これが嗅球そのものの発達によるか、または体性感覚の受容により興奮する、主要なノルアドレナリン作動性線維の起始核である青斑核の発達によるものかそのメカニズムは明らかにされていません。そこで動物の年齢を考慮して行動実験を重ねることにより、このメカニズムを明らかにしたいと考えています。

他の感覚系に比べ嗅覚はヒトにおいて退化した感覚系とみなされ、嗅覚に関する研究が最も遅れています。しかし近年アロマテラピー、ヒトにおけるフェロモンの受容など次第に嗅覚の重要性が注目されるようになり、ヒトにおいても乳児が母の乳房付近のにおいをよく学習することが報告されています。本来哺乳動物であるヒトの母子も互いのにおいをもとにその養育をおこなう能力を持っている。一方では、乳幼児虐待など健全な親子関係の形成不全の増加を危惧する声が高まりつつあります。われわれの研究がこれらの社会問題解決に直結するといえませんが、未だ明らかにされていない、幼若動物の機能の一部を明らかにすることによって、少しでも医学の発展に貢献したいと考えています。

私自身二男一女の母親として、かろうじて仕事と家庭を両立させながら働く毎日ですが、ごく身近で感じていることを動機として研究に励むことのできる幸運な状況に対して、深く感謝しております。

第20回学術研究助成のご案内

会員の学術研究に対し助成事業を行なっております。希望者がありましたら、応募要項にしたがって、事務局あて申請くださるようお願いいたします。

一、助成の趣旨

医学分野の発展向上を図り、後進の研究助成を目的とする。

二、助成金額

一件三十五万円(一五件)

三、申込手続

(1) 応募資格
入会継続三年以上経過した日本女医学会会員で個人、またはグループ(ただし、グループ研究においては会員が研究推進の中心的役割をになうものであること)

(2) 助成期間
一年を原則とする。同一人が重ねて申請する場合は、三年以上の間隔を置く。

(3) 応募方法

本会所定の用紙に、黒インキまたはワープロで記入。

(4) 申込期間

平成11年12月25日(土)必着

(5) 選考および発表方法

選考委員会において選考の上、平成12年3月開催の日本女医学会理事會において決定し、申請者宛に通知する。

(6) 助成金の贈呈

平成12年5月開催の日本女医学会総会の席上。

(7) 受賞者の本会に対する義務

平成13年3月末日までに研究経過報告(B5原稿用紙三枚)と助成金使途についての簡単な収支報告を提出すること。

(8) 送り先

日本女医学会本部 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷一丁目一七
電話 〇三三四九八〇五七一

▼地域医療奉仕への助成を受けて

北海道支部 堀口貞子

昨年の秋、釧路管内の障害児療育と子育て支援の情報を集めたガイドブック『みんなのゴキゲン子育て』を発行したことが、北海道支部長の目にとまり、そのご推薦を受け、日本女医学会の今年度の「地域医療奉仕への助成」をいただきました。釧路の堀口です。といひました。助成の対象となりましたのは私個人ではなく、ガイドブックを作成した「マザーグースの会」という障害児を持つ親とその支援者でつくる、いわゆる自助グループで、その代表を私がとっております。

「マザーグースの会」は平成5年に私を含めた三十四人の母親と保健婦さんたちで発足し、例会や会報の発行の他に月に一回のリトミック教室や週に一回の水泳教室などを行ないながら七年目を迎えました。その間会員は増えつづけ、現在何らかの障害を持った子どもの親が約五百五十人と、保育者や教員、療育関係者や医療関係者などの支援者（健常児の親も含）が同じく五百五十人、合わせて三百人が釧路管内の他、北海道全体さらには全国に広がっています。

が、当事者（親）と支援者が共同で育児と療育のガイドブックを作成し発行することでした。その基本コンセプトは「障害児を育てることも健常児を育てるのと同じ」にあること。障害児や発達に不安のある子どもを持つ親たちが自信を持って子育てできるように、そして「どんな人も自分の人生の主人公として主体的に生きてほしい」というのが「ゴキゲン子育て」にこめた私たちの願いです。

女医学会の席で助成金を授けられたのち、受賞者のスピーチの時間をいただいたので、そのような思いと、今後の活動予定（療育サロンの開設や子育てサポーター事業など）について話をさせていただいたところ、会場のあちこちで「うん、うん」と大きくうなずいてくれているのが壇上からはつきりと見えたのです。さらに総会が終わると日本女医学会長の橋本葉子先生はじめ何人かの先生がかけ寄り、激励の言葉を掛けてくださいました。またロビーで「ゴキゲン子育て」を販売させていただいている間にも、ご自分も障害児を育てられたという先生や診療所に通

アメリカ女医学会雑誌が下記の論文を募集しております。ふるってご応募ください。

JAMWA welcomes articles on women's health topics with an international perspective. Articles not intended for publication in a specific issue maybe submitted at any time. Otherwise, please submit manuscripts by the following dates:

The Woman Physician in the Year 2000:
May 15, 1999

Women and Occupational Health:
June 1, 1999

Women and Screening Tests:
August 2, 1999

Informed Consent and Confidentiality in Women's Health:
October 1, 1999

The Journal of the American Medical Women's Association is a peer reviewed medical journal that focuses on women's health. It is read by the more than 9,000 members of the American Medical Women's Association as well as many non-member subscribers and is included in Index Medicus. JAMWA articles generally run about 3,000 words and acceptance is contingent upon blinded peer review.

PLEASE SEND SUBMISSIONS TO:
Wendy Chavkin, MD., MPH
Editor-in-Chief, JAMWA
Columbia University-CPFH
60 Haven Avenue, B-3
New York, NY 10032
USA

FAX 212-304-5606
E-Mail: jamwa@columbia.edu
VISIT OUR WEB PAGE AT: www.jamwa.org

第44回定時総会を担当して

北海道支部長 斯波憲子

つて来る子どもの親ごさんのためにと本を買ってくださった先生、ご自分の地域でガイドブックを作りたいので参考にとお買上げくださった先生など、本当に多くの方々にあたたかく声をかけていただいたのでした。今回、初めて「女医学会」に参加させていただきましたが、このように

多くの先生方に私たちの活動を共感を持って受け入れていただき、どれほど心強く感じました。今回出会った多くの女性医師の方々は、今後もさまざまな形で付き合い合せていただきたいと思います。新しいネットワークの広がりにつながるだろ

うと、私は期待に胸を膨らませていきます。こういう機会を与えてくださいました日本女医学会の皆様、心より感謝申し上げます。これからもこの助成金を無駄にしないよう、地域医療に微力ながら貢献していきたいと決意を新たにしております。

本当にありがとうございました。

北海道で初めて日本女医学会総会を開催させていただきました。前日までの小雨降るリラ冷えのお天気があるように、からりと晴れあがった青空とともに皆様をお迎えでき嬉しく思っております。

当日は道支部の日本女医学会非会員を含め、全国各地から二〇〇名近い会員が、また懇親会には初めて日本医師会からご出席を頂き感謝しております。

当日の企画は二年前に出来ておりましたので、最大の難関は資金集めでした。役員たちは皆、しがない開業医で大病院の経営者があるわけでもないため、製薬会社の協力も二十数社しか頂けず、苦しい思いを致しましたが、賛助金集めを女医学会のPR活動の一つと位置付け、取り組み

ました。その結果、なんと二〇〇名近い道支部会員から賛助を頂きました。支部総会に出席される先生は年々少なくなっているのに、まさかこのように多くの会員から賛助を頂けるとは思ってもおらず、感激致しました。もとより身分不相応なことをするつもりは毛頭ございませんでしたが、4月になってから、北海道や北海道医師会から大きな賛助を頂き、ホテルのお部屋、鈴蘭、プログラム、懇親会の鯉の水像など、諦めていたことが実現できるようにになりました。

北海道医師会、札幌国際プラザが自発的に、(株)京王観光、ロイトン札幌、札幌ビール園などが採算を度外視して参画してくださり、支部役員たちは各自の割り当てを効率的に果たし、皆様をおもてなしすること



会長より各受賞者へ賞が手渡された。

新医学用語豆辞典

【時間医学と時計遺伝子】

ヒトの身体は刻々と経時的に変動しており、これを生体リズム(Biorhythm)という。生命現象と時間との関係を解明する学問が時間生物学で、ヒトへの応用は時間医学へと発展した。生体リズムはさまざまな周期を持って振動しており、ヒトの身体と心の機能は多くの振動の合成として働いている。その中で、ほぼ24時間で繰り返されるリズムを概日リズム(Circadian rhythm)という。このリズムは体内に生まれながらに持っている体内時計(これは24.5~25時間周期)と、リセット因子(目に対する光刺激や松果体から分泌されるメラトニン等)が加わって形成される。体内時計は視交叉上核に存在し、17染色体上に時計遺伝子の存在が確認され、そのアミノ酸配列も東京大学医科学研究所や神戸大学の研究者らにより同定された。時計遺伝子のアミノ酸配列は下等動物から人までほぼ同じ配列を持っていることも確認されている。身体の細胞や組織の機能と時間との関係や病気の発生しやすい時間(魔の時間)などが次第に明らかになってきた。体内時計と太陽の運行に伴う自然時計は、同調して生体時計を作り、ヒトの身体と心の調和を保っている。時間医学は時計遺伝子の証明により、確立された医学となり、「魔の時間」を未然に予防し、さらにはこの時間帯に治療効果をあげる工夫、すなわち、時間治療(Chronotherapy)へと発展しつつある。

渡辺淳一先生講演会

北海道支部副支部長 今井蓉子

前夜祭に母校札幌医科大学のご出身である、渡辺淳一先生の講演会を企画いたしました。それは、昨年札幌で開催された日本小児科医学会に、埼玉支部の村田郁、深井登起子先生がご出席されたことがきっかけでし

- ③評議員会、④総会、⑤公開講演会、⑥母性保護委員会・北海道支部40周年記念式典、⑦懇親会のビデオ各五〇〇〇円でお届けいたしますので、

入用の方は御連絡ください。
(連絡先 ☎:011-856-1566
Fax:011-856-1566) しば小児科



前夜祭のひとつ



渡辺淳一先生の講演

た。

渡辺淳一先生と参加者がほとんど同じ目線の高さという具合で、リラックしたアットホームな雰囲気の中で始まりました。

男女の機微」という演題でお話になりましたが、ときにはユーモアを交えながら参加者をぐいぐい引き込んで行くお話で、時の経つのも忘

小樽半日観光に参加して

墨田支部 甲子 万里子

5月23日(日) 北海道にしては気温が高い風が心地よい。9時にホテル・ロイトン札幌を出発。大型バ

スほとんど満席で小樽に向う。約四十分で小樽に入り、まず石原裕次郎記念館につく。近くに大きなショッ

ピングセンターができて、夢小樽美術館ができて、小樽の観光名所となつて大勢の人出であった。次に小樽運河を車窓に見て祝津のオタモイ岬の鯨御殿へ、昔鯨のとれた頃は大勢のヤン衆が出入りしていたであろう当時の賑わいがしのばれるが、石狩挽歌の「今じゃさびれてオンボロ」の唄が思い出される。

次に昼食に旧青山別邸へ。ここは祝津の網元青山家が六年の歳月をかけて建てた別邸で、十畳以上の部屋が十八室あり、それぞれに当時の著名な画家、書家による襖絵や、神代杉の天井、紫檀、黒檀の一刀彫の欄間など、鯨漁全盛の頃の網元の栄華をしのばせる建物だが、時間がなく駆逐足で見物で残念であった。潮懐石の昼食をいただき、小樽運河の近くでバスを降り、しばし自由行動。運河を散策する人、北一硝子、オルゴール館、ヴェネチヤ美術館で買物をする人、名物喫茶にいらつしやうた人、それぞれに散つて行った。短い小樽観光であったが皆満足して北海道支部の方とお別れ、千歳空港より関西方面、東京方面とお別れて帰途についた。

盛りだくさんな総会行事と観光で頭も目も口もたのませていただきました。私事でありますが女子医専に入前の女学校四年間を小樽ですごしましたので、しばらくぶりの小樽は特別になつかしく、うれしい旅でした。北海道支部の皆様へ感謝しております。

小樽旅行に参加して

北海道支部 濱田 啓子

日差しのまぶしい5月の初夏23日、第44回日本女医学会定時総会最後のプログラムとして、小旅行が三コースに分かれ行われた。小樽半日コース、道南コース、道東コースである。私は小樽半日コースに四名の北海道支部会員、三十二名の他支部会員の諸先生と共に参加した。充分なご案内ができてすれず失礼したが、石原裕次郎記念館・鯨御殿・旧青山別邸・北

道南コースを旅して

埼玉支部 鈴木 ハルエ

一、ガラス等自由散策と新千歳空港までの半日余、北海道支部会員の気持ちだけは受け取ってもらえ、それなりに各地の諸先生にエキゾチックな小樽の街をお楽しみ頂けたのではないかと推察している。旅行中あまりじっくりお話しできなかった先生と後日手紙等で交流を持つことができ感謝している今日このごろである。

れ、一路バスは湖の中程に中島を浮かべるカルデラ湖洞爺湖にまいる。湖岸よりエスポール遊覧船に乗り、鏡のような湖面にしばしの間心がやすらぎました。

その後バスにゆられ国定公園に指定されている活火山駒ヶ岳を囲む大沼小沼を三々五々散策し、目に沁みいる緑の変化に思わず深呼吸をしてみたくまりました。再びバスにゆられ約一時間、薄紫色、白色のライラックの花、また松の木が街路樹として植えられている道をひたすら走り、北海道に最初に開かれたという湯の川温泉の湯の川プリンスホテル渚亭にまいました。客室のべランダに露天風呂があり、青い空、星のまたたきを見ながら湯に憩い、部屋にうつろぎ、旅の一夜を迎えました。函館山から眺める百万ドルの夜景はもやのため、宝石をちりばめた輝きはみられませんでしたが、それ以上の宝石が私たちの心の中にちりばめられたことと思えました。

5/24・函館、札幌には繰り返し見ても飽きない西洋建築がたくさんありました。

函館ハリストス正教会の聖堂の屋根を飾るネギ坊主と十字架は大小三本あり、その内の一本は斜めについて坂道の上の高台から見るとは優美でした。旧函館区公会堂はこれはアメリカ系コロニアル様式の二階建ての板張りペンキ塗り、とても色のコントラストが良く、しばしの間足をとめました。トラピスチヌ修道院は



ランス宣教師が建てたハリストス正教会とともに函館のエキゾチックな教会として現在歴史の流れとともに創立当時の深い信仰と愛のともじびを消すことなく、教会と現代世界の中で役割を果たす努力をにつづけられていくとの事です。金森倉庫は現在フランス伝統のガラス工芸の美術館として煉瓦造り二階建て漆喰塗りの建物です。函館の歴史とロマンが光と音になり、やさしさとやすらぎが漂っていました。五稜閣公園は徳川幕府の奉行所を守るために作られた城です。この堀の形が五つのとんがりがあり、五稜閣と呼ばれています。明治時代、徳川幕府の根本

武揚が新しい国を作るため函館に来て五稜閣を占領しましたが、明治政府と戦争になり、それが箱館戦争でした。今は日本の歴史を知るための国の文化財に定められ、整然とした道に四季の花が咲き、人々の心をなぐさめてくれる事でしょう。函館で百余年の歳月にわたって食文化の灯をともしているのが五島軒です。静かな部屋に通され、北の味覚を堪能いたしました。メニューは函館の味イカカレーコースで、どの顔も満足のはほえみでした。最後に函館牛乳工場にておいしいアイスをさわやかな風の中で食べ、北海道の空気を心ゆくまで吸いました。

その後函館空港へと帰路の旅に付きましました。二日の諸先生と二日間をぶじに過ごすことが出来たことを感謝致します。最後に日本女医学会北海道支部長斯波先生始め諸先生にこ

道東コースに参加して

神奈川支部 中濱 昌子

道東コースへの参加者は、佐賀支部の緒方文江、諸井ミサヲ両先生、神奈川支部の森田和子先生と私の四人だけでしたので、リムジンハイヤーで廻ることになった。少人数なのでまとまりはよいし、座席もゆつたり、観光会社の次長というドライブバ

ーさんはガイドも兼ねてくださり、楽しい観光となりました。23日午前8時過ぎ札幌を後にして車は網走に向い走りだした。「網走まで三八〇キロあります」と聞き、私の住んでいる横浜から彦根辺りの距離ですので、北海道の広さを改

吉岡弥生賞推せんについて

平成11年 吉岡弥生賞 授賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せんくださるようお願いいたします。締め切り期日は、本年12月25日までに願います。なお、次の書類を添えて、ご推せんをお願いします。

- 一、自筆履歴書
- 二、業績
- イ 医学に貢献した現会員。
- ロ 社会に貢献した現会員。
- 三、推せん理由

めて感じた。

チョッちゃんの故郷だという滝川を経て、「冠雪の黒岳、旭岳を眺めながら進む。最初の見学は、「アイヌパピリオン」。備え付けの防寒着をつけマイナス41度を体感する。隣接の熊牧場では、二メートル以上もありそうなる熊、北極熊が寝をべつてい。展示室では三・六メートルという熊の剥製があり、ドライバーさんのお話では熊の胃から人間の骨が出てきたとか、最近、熊に襲われたというニュースも二、三あり、こんな大きな熊に襲われたらひとたまりもないと思うとゾッとしたり。

カメラを向けても動じなかった。日本で二番目に長いといわれる石狩川に沿ってさらに進み、白蛇の滝他二カ所の滝、壮大な景観の大函を経て、今日のメインの博物館網走監獄に到着した。五棟が放射状に連なった放射状舎房、これだと見張りも一カ所でのこと。すべて自給自足の生活で、巧みに作られた蠟人形で当時の受刑者の生活を現わしている。脱獄を試みた受刑者も蠟人形で作られている。ドライバーさんは何度も脱獄に成功した受刑者のやり方について説明し、「頭がよかったんだ」という。頭のよいのをもつといい方へ廻せば社会的に役に立ったのではないかと複雑な気持ちになった。宿泊は和風旅館で蟹を堪能するほどだった。

24日、左にオホーツク海を眺め、湯湖、小清水原生花園の前を通り、「オレン・コシンの滝」に到着。知床半島最大の美しい滝といわれる通り水量も多く迫力のある滝だった。ついで三段の滝を見、知床観光船に乗るべく発着場へ向う。最果てのオホーツク海を走る知床航路、鬱蒼と樹が茂る知床半島の断崖からは幾筋もの滝がオホーツク海に流れ落ちていて壮観だった。折返し地点の岩礁ではアザラシが横たわっていた。知床自然センターでダイナビジョンで知床岬や断崖などの自然の紹介映像を観る。知床五湖、硫黄山を経て屈斜路湖、摩周湖に着く。摩周湖は霧がかかっている

カメラを向けても動じなかった。日本で二番目に長いといわれる石狩川に沿ってさらに進み、白蛇の滝他二カ所の滝、壮大な景観の大函を経て、今日のメインの博物館網走監獄に到着した。五棟が放射状に連なった放射状舎房、これだと見張りも一カ所でのこと。すべて自給自足の生活で、巧みに作られた蠟人形で当時の受刑者の生活を現わしている。脱獄を試みた受刑者も蠟人形で作られている。ドライバーさんは何度も脱獄に成功した受刑者のやり方について説明し、「頭がよかったんだ」という。頭のよいのをもつといい方へ廻せば社会的に役に立ったのではないかと複雑な気持ちになった。宿泊は和風旅館で蟹を堪能するほどだった。

ジスターセンターでは、野球ボール大のマリモが水槽に展示、次の部屋では原生林の動物や鳥類(鳥はそれぞれがのり声かテープで聞ける)原生林の木材等が展示されていた。ついで釧路にはいり、丹頂鶴自然公園を観る。丹頂鶴を自然の形で放し飼いで飼育。それぞれに名前がつけられ、自由に飛び回っている鶴も何羽か見られた。二日半の観光も終了、午後1時30分、釧路空港に無事到着した。お互ひに身を寄せ合ひて眠りをる子狐のさま 愛らしくして

ゴルフコンペに参加して

北海道支部 今井 蓉子

第44回日本女医学会総会が札幌で盛会のうちに終了し、翌5月23日苫小牧市の千歳空港CCにて快晴無風の絶好のコンディションでゴルフコンペが開催されました。本州の十一名の先生と、道支部会員十一名の計二十二人が参加し、女医会副会長石原幸子先生、道支部会員で道女子ゴルフ協会会長土本ケイ子先生の始球式により、にぎやかに

始まりました。広々としたなだらかな起伏の美しいコースで和気藹々のたのしいコンペとなりました。道支部よりの賞のほかに、石原先生はじめ参加者がお持ちくださったたくさんの賞品で、表彰式も盛大に行われ、お互いの親睦を深め、来年の女医会総会での再会を約束した一日でした。

荻野吟子賞推せんについて

定時総会に出席して思うこと

大阪第8支部 中山真知子

若葉の美しい5月、風薫る5月、私は初めて日本女医学会総会出席のため札幌に参りました。札幌は、光も空気も透きとおり、山の峰には残雪、私ははずむ心で出席致しました。会場はしやれた作りのロイトン札幌。21日から23日まで、盛りだくさんのメニューが組まれていたのですが、私が参加させていただきましたのは、評議員会と支部長会議、それに総会でした。私自身は、おとし、大阪支部の川田喜代子先生よりお誘いを受けて、大阪府女医会、日本女医会に入会したところで、いわばル

ではないか、と考えております。地域の医師会、あるいは大学の同窓の女性医師に直接お声をかけること。これを分担を決めて、憶却がらずにアタックすれば、必ず誠意は通じます。努力は実ります。また入会したら、ほつたらかしてアフターケアなどは、やはり自然に足は遠のきます。常にコミュニケーションを保つことが肝腎です。次の会のご案内、催し物のご案内など、どうかご存知の若いドクターに声をかけてみてください。そして私のように発言できる場をぜひもってあげてください。メールだけでは不十分でしょう。無視されまします。

私にとりましては、女医会は楽しいの一言に尽きます。楽しさが一番です。そして何より、自分の世界が広がったこと、尊敬できる諸先輩、後輩の女性医師と知りあえたこと。これは、私の心の財産なのです。大阪府女医学会の八十七歳の富山艶子会長のハツラツとしたお姿は、私にとりまして励みです。そして、若い最前線のドクターのレクチャーは、非常に勉強にも刺激にもなります。他の女性との交流を通して、女性医師として社会からどういふことが要求されているかを探る試みもしたいものです。各国の女性医師との交流もはかりたいところです。まだ女性の地位が低い国々の女性医師の立場、意見、仕事内容なども伺ってみたいと思います。自分の世界を広げるチャンスです

よ、皆さま！

全国支部長会議報告

理事 宮原 茂子

平成11年5月22日(土)、ロイトン札幌において、評議員会が開催されました。

その終了後引き続き全国支部長会議が開かれました。この会議は今年初めての試みで、平成10年11月7日の第一回ブロック別懇談会に続くものとして、会員増強に対する意見交換や各支部の現状報告のためのものです。出席者は北海道、青森、秋田、山形、宮城、福島、埼玉、栃木、茨城、千葉、神奈川、山梨、静岡、愛知、大阪、広島、高知、宮崎から各一名、佐賀二名、東京九名、その他役員二十名でした。

清水庶務担当理事の司会で各支部のお話を伺いました。各支部とも会員増強のためにいろいろ苦勞があり、入会を勧めるアプローチとして、①入会していない方たちを支部の集まりに招待し、食事をしたりゲームをして親睦を図る。②支部内に大学がある所では新卒の人に手紙を出して入会を勧める。③県の女医会に新人を招き講演をお願いする。④女医入会時に役職につけ自覚を促す。

MWIA副会長(西太平洋地域担当) Maxwell先生を囲んで

ナショナルコーディネーター 平敷 淳子

⑤本会会員に女医会に対する意識調査を行う予定等があげられました。また本部に対し、①県の女医会を開

1999年4月1日夕刻から東京シテイクラブにおいて理事六名、東京支部連合会会員三名の参加をえてDr. Maxwellとの懇談会がおこなわれました。Dr. Maxwellは日本女医学会の組織や活動内容を詳しくお知りになりたいと積極的な質問をなされました。橋本会長より組織全般、会員数、名譽会員の数、支部の数とそれらの活動、広報活動、市民公開講座、会員のためのワークショップ、講演会やセミナーなど手際よくまとめ総括的に話されました。Dr. Maxwellは

催する時に本部役員に出席していただきたい。②各地区で本部主催の公開講演会を開催して欲しい、という希望が出されました。最後に橋本会長より女医会と大学に在籍する会員との連絡が時々うまくいかないことがあるのでインターネットの利用も考え、確実な連絡方法を確立したいというお話がありました。閉会となりました。

MWIAからの情報が日本女医学会員にくまなく伝達されるよう希望され、特に国際女医会議での決定事項を厚生省や日本医師会にも伝えて欲しいと希望されました。日本医師会との関係についても興味深く耳を傾けてくれました。特に石原副会長が、日本医師会の女性会員懇談会の議長を務められ、提言をまとめあげた実績には感銘がなされておられました。広報活動は会員間のみならず、社会にたいしても大切な女医会の仕事であるともDr. Maxwellは申されました。

してきていること、まだまだ日本女医会に対する理解が足りないということが問題となっております。理解を深めていただくという意味でも本部への希望として提案された役員の派遣、公開講演会開催は有効な手段と思われまます。前回行われましたブロック別懇談会や、今回の支部長会議は各地区における問題点や情報交換に非常に役立つことが確認されたと思います。

最近の関連の出版物を用意してお見せするべきであったと準備不足が、少し悔やまれました。会員数の確保は各国の課題であり、その方略として、Dr. Maxwellは女子医学生への呼び掛けや「Career's evening」と称する専門医や先輩医師のお話を聞く会などを設け、会に入りやすいように、門戸を開ける工夫もニュージランドではなさっているとの事でした。日本女医学会が、個人的に海外でMWIAの会員やnational coordinatorを紹介してもらい、訪ねるといふ交流もしてみたいとの提言もDr. Maxwellはなされておりました。1999年に韓国で予定されておりました西太平洋地域会議が中止になったことについては、この地域の会長とnational coordinatorとだけども、韓国で本年会合を持ちたいとDr. Maxwellより提案され、参加者全



フジモリ大統領、紀宮様、海部元総理の顔も見える



フジモリ大統領主催晩餐会にて

日本人ペルー移住百周年記念行事に参加するため、去る5月27日〜6月5日までペルーを訪問して参りました。リマは気温18〜20℃、雨もほとんど降らない秋のシーズンでした。最初の予定は5月27日の23時30分にはリマに到着の予定でしたが、飛行

会長 橋本葉子

移住百周年記念行事に参加して

会期中にはLatin American Medical Women's Allianceの先生方とのペルー空軍クラブでの昼食会にもお招きいただきました。MWIAの会議からの顔見知りの先生方とも旧交を暖めることができました。今リマ市は落着きのある、暖かな

心休まる街でした、食事もおいしく去りがたい街でした。日本人ペルー移住百年を記念して病院建設も計画され、その定礎式にも参列させていただきました。日本女医学会と会員とが協力できる道は開かれていけると感じました。

機の都合で28日の7時10分ごろにリマに到着しました。現在、ペルーでは年間を通して記念事業が行われておりますが、招待された行事は、①移住先駆者追悼式、②ペルーの夕べ、③5月2日病院(Hospital Dos de Mayo)訪問、④

小西大使主催レセプション、⑤フジモリ大統領主催晩餐会、⑥記念病院建設定礎式、⑦移住百周年記念式典でありました。①、③は平敷理事と、⑥と⑦は大坪理事も加わって参加いたしました。④と⑤は日本女医学会関係は私一人が招待されました。⑥と⑦は大坪理事からご報告があると思っております。①〜⑤までを簡単に報告いたします。

第17回「市川房枝基金」応募要項

- 援助課題 女性の地位向上、政治の浄化、国際協力などのための個人及び団体の研究調査、活動で、社会に役立つものであること
- 援助の対象 原則として女性であること（個人及び団体・グループ）
- 選考の基準 ①独創的であること ②現代的問題意識のあること ③援助期間内（援助決定後約1年）にかなりの成果があること
- 審査 運用委員会がこれにあたる。必要に応じて専門の有識者を依頼する
- 援助金額 総額 50万円
- 援助件数 原則として1件とするが、応募内容により1〜2件とし、金額を決定する
- 応募締切 1999年8月31日（消印有効）
- 応募方法 添付の応募用紙に記入の上、下記へ郵送
- 審査発表 1999年11月1日
- 援助金贈呈 1999年11月15日
- 応募先 財団法人市川房枝記念会 市川房枝基金運用委員会
- 〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-21-11 ☎03-3370-0238
- その他 審査結果は各応募者に通知するが、応募資料その他は返却しない

＜興味のある方は日本女医学会事務局までお問い合わせください＞

「女性医師の働く環境の改善と支援体制の整備拡充を求める要望書」を提出して

会長 橋本葉子

4月2日の午後、標記要望書を提出して参りました。松井ひろみ理事のお手配で、会長の私と松井理事が直接お手渡ししましたのは、①総理官邸にて、内閣総理大臣・小淵恵三、内閣官房長官・野中広務、②自由民主党本部にて、幹事長・森善朗、政務調査会長・池田行彦、女性局長・狩野安、③厚生省庁舎にて、厚生大臣・宮下創平、労働省庁舎にて、女性局長・藤井龍子の各氏であります。藤井局長には労働大臣宛の要望書を受け取っていただきました。当日直接お目にかかることは出来ませんでした。下記の方々には松井理事を通して提出いたしました。文部大臣・有馬朗人、自由民主党総務局長・尾身幸次、人事局長・陣内孝雄、組織本部長・亀井善之、団体総局長・白川勝彦、地方自治関係団体委員長・横内正明、女性社会教育・宗教関係団体委員長・中曾根弘文、社会福祉・環境関係団体委員長・萩野浩基、労働・消費者関係団体委員長・柳本卓治、労政局長・長勢甚遠、両院議員総会長・坂野重信、総務会長・深



ペルー女医学会の役員たち

1999年は日本人ペルー移住百周年祭としてペルーではさまざまな行事が計画されています。MWIAラテンアメリカ地域副会長であり、日

学術担当理事 平敷淳子

第9回国際医学シンポジウムの講演者として

日本人ペルー移住百周年記念事業

保育園に預けているお子さんが急に病気になる場合の保育園へのお迎えの支援なども含まれておりますが、まだ、東京都内では数区で発足したばかりのようです。このアイディア

そのものは大変結構なものです。子供が病気になる場合の対策など、練馬区医師会が「つなばね」におかれたいようです。もう少し、関係部署とのネットワーク作りが必要

秘診療所に勤務のDr. Rebecca Kunitaniからは、ぜひこの機会にリマ市を訪問して欲しいと以前からお招きを受けていました。日秘診療所 (Asociation Peruano Japanese, Departamento Polclinico) は日系人の貴重な寄付によって約十八年前に設立された診療所で、一日約一四〇〇人の外来患者があり、一〇人の日系医師を中心に質の高い医療を施しています。その日秘診療所が中心となり、年一回の国際シンポジウムを開催しています。本年は第9回目、テーマは「高齢者、21世紀への対応」でした。ブラジルやアメリカの日系医師、フランス、イタラエ、アメリカ人の医師と日本の医師とで高齢者の疫学、婦人科、泌尿器科領域の諸疾患と乳癌についてのシンポジウムが三日間の予定で

計画されました。日本女医学会にも講師のお誘いがあり、乳癌乳房形成術の大家で東邦大学形成外科助教授の岩平佳子先生と乳癌診断の新しい潮流として私が参加させていただきました。講演は英語で、優秀なペルー人医師によるスペイン語への通訳ですすめられました。参加者は一〇〇名を越え、活発な質疑応答がありました。形成術については、術後のリハビリテーション、診断では腫瘍を触知できないで乳房X線像に石灰化を見つけた時の対処、ハイリスクグループへのスクリーニング法など多岐にわたりました。講演者に対してはきめ細かい気配りを随所でうけました。講演者全員に日秘診療所の組織委員会から賞状と日本人ペルー移住百周年祭のコインを、閉会式では約四五〇年の歴史を有するサンマルコス大学Visiting Professorのタイトルを総長から頂戴いたしました。まことに名譽なことと感激いたしました。加えて、ペルーと日本女医学会との関係をこれほどまでに高めてくださいました山崎倫子名誉会長をはじめとする先人の偉業に頭がさがりました。

May) 訪問は5月29日9時~11時まで予定されておりました。百二十年の歴史のある病院でしたが、リマでも治安の悪い地域にあるため、嚴重な警備の中、院長室に案内していただきました。院長やスタッフの先生から医療事情をお話ししていただきましたが、フジモリ政権になってから大分医療事情が改善されたこと、公共の送電が完備されたので、停電の心配がなくなったことなどを伺いました。以前は自家発電だったため、時々発電装置を破壊され、よく停電したそうです。この病院の建築様式で少し奇異に感じたのは、中庭と入院室がドア一つで仕切られているだけということでした。

④小西大使主催レセプションは、5月29日13時から、紀宮様の宿泊されたホテルで行われました。紀宮清子内親王殿下は日本人ペルー移住百周年記念事業の名譽総裁であられるので、29日にはリマにお着きになられたようです。昼食会には紀宮様はお見えになられず、レセプションは大使のご挨拶もありません、ただ立食の食事を楽しまし、多くの日系一世の方が招待され、それぞれ食事を楽しんでおられました。

⑤フジモリ大統領主催晩餐会は、5月29日、大統領官邸において19時から始まり、最初に大統領より紀宮様へペルー大勲章授与の儀式が行われました。紀宮様は、「32年前当時皇太子妃であった現皇后陛下が同じ大勲章をお受けになられており、

非常に光栄に思います」とのご返礼をされました。続いて、大広間で着席、フルコースのディナーを楽しまれた後、ペルーと日本の伝統芸能が披露されました。日本からは琉球舞踊、諏訪太鼓、蛇踊りが出されました。これらの行事には、日本からは海部俊樹元総理大臣(日本ペルー議員連盟会長)や国会議員、各界の代表の方々が多数参加されました。平敷理事と私は帰国直前、日秘診

病院建設定礎式と百周年記念中央祝典に参加して

広報部 大坪 公子

今年日本人がペルーに移住して百年になります。さまざまな記念祝典が行われましたが、私は百周年記念病院建設の定礎式と百周年記念中央祝典に参加したので報告します。

ペルーには国際女医学会副会長(ラテンアメリカ担当)のレベッカ・クニヨシ氏がおられ、日本女医学会と特に親しい関係にあります。病院建設定礎式は平成11年5月30日、病院建設予定地のリマ市エプロフレ区で午前9時より開始されました。日本女医学会からは、橋本葉子会長、平敷淳子ナショナルコーディネーターと私が参加しました。

療所の医師数名と記念病院開院に向けての医療人の研修について話し合っているの場を持ち、今後の支援方法を検討して参りました。現在、日本ペルー協会の方と経済的支援方法について連絡を取っているところであり、支援をしたいと思います。日本女医学会としてできる限りの支援をしたいと考えており、皆様のご協力ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

土地に地下二階、地上十三階建ての病院を建設する規模の大きいものです。病院建設は三期に分けて実施され、まず本年8月より地下二階と地上一階が建てられます。一四〇万ドルの工事費が集められました。第二期工事は二四〇万ドルを用いて、六十床収容するための二階から九階までの建設をします。日本国際協力財団と日本財団(笹川財団)が一〇〇万ドルずつを寄付する予定です。第三期工事は九〇万ドルを用いて十階から十三階を建設する予定です。設備の充実と先端技術を用いた器材の導入はJICAを通じて日本政府が協力します。

このような計画のもとに広く資金

地域医療奉仕活動に対する助成のご案内

(社)日本女医学会 事業部

平成11年「地域医療奉仕活動」に対し助成を致しますのでご案内申し上げます。

各地域において医療、公衆衛生等の奉仕活動を行なっている日本女医学会会員を主体とするグループを対象と致します。応募の締切は平成11年12月25日、申請書は事務局にありますのでお問い合わせください。

最初の日系人移住者七九〇名が佐倉丸でカヤオ港に到着しました。あらゆる艱難辛苦を乗り越えてペルーに溶け込み、現在のペルーの日系人社会が築かれていったのです。正直、誠実、勤勉といった一世の方々を持つておられた特質が二世、三世、四世の方々を引き継がれ、ついにはアルベルト・藤森大統領を生みだしました。「今世紀も終りに近づき、この百周年記念祝典を、数少なく、この一世の皆さんに対し盛大、かつ厳粛に捧げたい」と、ラルド丸井氏、春名和雄氏、海部俊樹氏の挨拶があり、その後には紀宮様のお言葉がありました。はつきりとした口調で日系人たちの苦勞をねぎらわれ、今後のますますの発展を期待すると述べられました。運動場全体が、感激につつまれました。最後にアルベルト・藤森大統領が挨拶され、天皇陛下の御名代として、紀宮内親王殿下をお迎えし中央祝典ができたことを感謝し、ペルー・日本両国の発展を期待すると

挨拶されました。その後記念切手に紀宮様と大統領がそろってスタンプをおされました。また運動場内の日本庭園で、杉の樹の記念植樹をなさいました。式典エキビジョンは、日本大鼓、りんけんバンド、花笠踊りなどにぎ

私の大学「札幌医科大学」

北海道支部 藤井 美穂

札幌の中心街から歩いて十五分ほどの病院街に私の母校、札幌医科大学がある。臨床棟、研究棟、基礎研究棟の高層三棟を中心に図書館、国際交流センターなどの施設が囲み、わずかの遊歩道公園に緑をみることが出来る。

札幌にはもう一つの医学部が北海道大学にあり、ここはキャンパスの面積では日本一を誇る北海道らしい緑の自然の中、帝国大学時代の趣のある校舎が点々としており、学生時代はその雄大さが実に羨ましかったものだ。

しかし札幌医科大学の学生たちは入学と同時に隣に建つ付属病院から一服の緑を求めて散歩に出てくる患者さんの日常に触れているのである。同じベンチを共有し患者さんと学生たちがそれぞれ談笑している光景に思わず笑みがこぼれるのは私だけではないだろう。北海道の北の端にあ

やかに夜遅くまで行われました。今、ペルーは政治、経済、科学の面でも安定発展してきています。日本女医学会としても、応分の援助をしたいものだと思います。

移民百年 大統領を生みし国に安らぎ満ちる 病院を建てむ

私の大学「札幌医科大学」

北海道支部 藤井 美穂

利尻島中央病院産婦人科には私の医局から産婦人科医が交代で医師不在とならないように診療にあたっているが、海が荒れフェリーが動けない日、何度ヘリコプターで大学まで母体搬送したことだろう。ロシアの熱傷の少年も、事故で重傷の男性も搬送されてきた。臨床棟屋上のヘリポートが示すように、ここは北海道の医療を支えるセンターであり、ここに学ぶ学生たちは総合大学にはない親密なさまざまな関係の中で着実に育っているのではないだろうか。

昭和20年4月戦争末期の開校に始まり、昭和26年3月の廃校をもって終わった北海道立女子医学専門学校が札幌医科大学の前身である。敗戦後の最も困難な六年間を生き抜いた女子医専の歩みは想像を絶するものであろう。しかし仮校舎前で撮った当時の写真に残る女子学生の表情からは苦難など微塵も感じさせな

い明るさと、前向きな意欲だけが伝わってくる。私が入学した年、女子は一〇〇人中七名、上の学年は四名、その上は一名だった。全学年合わせても二十数名足らずのこの集団は親密に六年間を過ごし、それぞれの道を選んでいったが、女子学生はあくまでマイナーであった。

昨年新入生の一泊オリエンテーションに同伴し、高校卒業したばかりのまっさらの学生たちと語り明かしたのだが、一〇〇人中二十八人の女子学生は実に遅く、生き方に一本筋が通っている気がした。案の定、半年後の医学概論のゼミで「クロロ動物」というテーマを選択したグループを担当したのだが、ここでも彼女たちは男子学生をリードし、もはやマイナーなどとは無縁の堂々とした成長ぶりであった。

三十年前日本で最初の心臓移植を行ったのが札幌医大であった。空白の長い年月が過ぎ、移植をはじめ多様化した医療内容、研究の渦が押し寄せてきている今、後輩たちにつ立ち止まり、確かめながら歩んでいくことを期待したい。

理事会議事録

日 場：平成11年2月27日(土) 午後1時より
場 所：東京女子医大中央校舎会議室

- 出席者：橋本、石原、加藤、青井、大澤、大坪、川田、栗原、澤口、佐々木、鹿田、清水、西嶋、久田、平敷、丸茂、村田、吉崎、中濱、野澤(以上20名)
欠席者：橋川、佐藤、田中、松井、松本、宮原(以上6名)
- 一、理事会の議事録を承認
報告事項
別紙とおり報告
二、会計報告 川田理事承認
平成11年1月分収支別紙と別紙報告
また、栗原理事より現在までの会費納入状況の説明があった。
三、各部報告
【庶務部】 鹿田理事承認
・1月の新年会での余剰金は別会計でブルーする。
【事業部】 丸茂理事承認
・2月11日に千葉支部開催の公開講演会成功裡に終了。
・来年度は埼玉支部と愛知県支部が、公開講演会開催希望。
・長崎支部の講演会に補助をするか否か検討したが、予算の関係上、不可能との結論になる。
・三豊興業より、ガン保険の保険料改訂のお知らせを全会員に発送した旨の希望があり、許可する。
【広報部】 村田理事承認
・第157号会誌、発送済み。
【学術部】 澤口理事承認
・当日(2月27日)開催の公開講演会、順調に準備中。
協賛事項
一、平成11年度事業計画案および予算案
二、地域医療奉仕への助成の件
・申請が三団体あり厳正に協議の上、北海道の「マザーグースの会」に決定。
三、女医の環境整備委員会要望書
- (案の件)
・今まで寄せられた意見を審議、検討した。
・総理大臣、自民党三役へは持参し、各医科大学学長、日本医師会、各都道府県医師会へは郵送する。
・また、理事が持参できる病院へも提出する事に。
四、百周年記念事業の件 京王プラザホテルとホテルオークラより見積書が届き、費用の面で検討。
・2002年5月18日(土)に総会、百年記念式典及び祝賀会を行うことと計画。
五、定時総会(於北海道)の件
・理事の全員参加を要請。
六、国際女医学会の件
・各コンベンションからの回答に基づきスケジュールを作成したものを連絡し、3月と4月理事会後にプレゼンテーションを願う。
・4月1日のDr. M. Kameiとの懇談会は関東近隣の支部長に連絡し、一三名の出席予定。
七、研究助成申請用紙改訂の件
・A3版よりA4版の別紙(案通り)に決定。
・「申し込みの一案内」も改訂することにし、原案を作成する。
八、第2回ブロック別懇談会の件
・神戸での開催を計画したが、近隣支部からのアクセスも悪く断念。
・愛知県支部長より、支部の講演会を兼ねてブロック別懇談会を秋頃に開催してもよいとの申し出があり、前向きに検討する。
九、その他
・対馬会員より医学会総会での三越健康博への協力依頼があった、質問、意見、協力希望などあれば事務局に連絡すること。 以上
庶務部担当 鹿田、清水

理事会議事録

日 時：平成11年3月27日(土)
午後3時より

場 所：(社)日本女医会会議室

出席者：橋本、石原、加藤、橋川、青井、大坪、栗原、澤口、佐々木、鹿田、田中、久田、平敷、松井、松本、吉崎、中濱、野澤(以上18名)
欠席者：大宮、村田(以上8名)
西嶋、丸茂、宮原、村田(以上8名)

2月理事会議事録を承認

報告事項

一、庶務報告 鹿田理事
別紙とおり報告、承認される。
二、会計報告 栗原理事
平成11年2月分収支、別紙とおり報告、承認される。

また、現在までの会費納入状況の説明あり、前年比より納入率は良いが金額として五〇万円ほどの減収になる見込み。
三、各部報告
【事業部】 久田理事
「いきいき」への原稿協力を要請。
【広報部】 佐々木理事
第158号会誌割付会議を3月17日に開催。

【学術部】 平敷理事
2月27日開催の「学術講演会」は出席六五名で成功裡に終了。
【会長報告】
・医学会総会会期中の託児所利用申込みは現在のところ三五名。
・協賛事項
一、定時評議員会、定時総会の件
・定時評議員会、定時総会での議題、議事の報告者を別紙通り決定。
・バザーについて検討された。
・理事が三、五、一、一万円の品を寄付する事に決定。品物の安い仕入れ先を探するなど、利益が出る方法を検討する。

二、平成13年度総会開催地の件
・加藤副会長が長崎支部に打診し、回答を次回理事会で検討する。
三、平成11年度事業計画案および予算案の件
・来年度計画案を検討し、決定する。
・会計部より今年度の最終決算額の子割があり、決定された計画案に基づき検討し、来年度は約一割減の子割を承認する。
四、国際女医会より論文募集の案内を会誌に載せる。
・本日理事会終了後開催のコンベンションのプレゼンテーションは順調に準備中。
・4月1日のDr. Maxwellとの懇談会は日本女医会についての質問に対する回答も用意し、十分な話し合いにしたい。

五、百周年記念事業の件
・2002年5月18日(土曜日)、午前に総会、午後には百周年記念式典を京王プラザで開催する事を再確認する。評議員会については改めて検討する。
六、女医の環境整備小委員会の件
・今後の活動の方向、継続の仕方等の問題提起があった。継続審議。
七、その他
・インターネット開設の件
・東京都支部連合会より開設費を出資するとの申し出があり、検討した。全員賛成で開設することに決定。一月電話代として約二、五〇〇円くらいの出費になる見込み。ホームページも平敷理事協力のもと、開設する予定。
副会長(庶務部担当) 橋川、鹿田

評議員会議事録

日 時：平成11年5月22日(土)
場 所：ロイトン札幌

(札幌市中央区北1条西丁目) 午前9時03分開会
司会 宮原 茂子
社団法人日本女医会評議員会開催に際し 評議員数 一〇七名
出席者数 四八名
記名委任数 二六名
白紙委任数 一四名
以上のとおり日本女医会定款第27条の定足数(二一名)に達し、評議員会が成立する旨の報告あり
開会を宣言。
会長挨拶 橋本葉子

一、会務及び事業報告 清水洋子
配布する資料にもつき報告
二、平成10年度特別会計報告
吉岡弥生賞基金会計、国際女医会記念事業基金会計、年金会計、以上について配布する資料にもつき報告
議長選出 前田 慶子 (議長着席)
大畑 信子、清水五百子

議事
第一号議案
(1)平成10年度一般会計収支計算書
配布する資料にもつき説明
原案とおり可決 川田喜代子
(2)剰余金処分案 川田喜代子
次期会計へ繰り越すことを原案と
おり可決
会計監査報告 野澤 良美
監査の結果適法かつ正確であることとを認める旨の報告あり。
第二号議案
平成11年度事業計画案
庶務部 橋川ふさ子
会員増加推進 橋川ふさ子
吉岡弥生賞 橋川ふさ子
事業部 橋川ふさ子
公衆衛生生活 橋川ふさ子
支部助成

集 記
編 後

日医総会開会式が、天皇皇后両陛下の行幸啓を仰いで行われ、お言葉をお聞きし、感無量でした。会長始め会員の皆様の世界を駆けめぐること活躍も嬉しい限りです。
日本女医会も前夜祭に始まり、総会・懇親会と盛り沢山の行事もスムーズに運営・進行されました。準備のご苦労が伝わってきます。広大な原野に育まれたその強靱な精神力・団結力で、会を成功裡に導かれた皆様に、喝采を贈りたいと思います。
女医会生誕百年を目前に、初めて北海道で開催されました。思えば、荻野吟子女史女医第一号の生誕の地は埼玉県です。そして生涯の地北海道。医師作家渡辺淳一先生と「花埋み」。女医会とその仲間。強い縁を感じます。

会員動静(敬称略)

新卒入会者

岸 容子 文京
堀口 貞子(昭和55年卒) 北海道
深野 直子(平成9年卒) 埼玉
村馬ルリ子(昭和59年卒) 墨田
有田由美子(平成2年卒) 台東
青木 正美(昭和60年卒) 中央
添田わか(平成6年卒) 中央
齋藤真知子(昭和48年卒) 山梨
前田 澄子(昭和24年卒) 大阪第5
退会 十名
宮崎 英子(昭和8年卒) 江戸川

閉会の辞

午前10時05分閉会
加藤 竺子

日本女医会誌
第159号

平成11年7月25日 発行

編集人 大坪 公子
発行人 橋本 葉子
制作 橋本 剛

発行所 社団法人 日本女医会

東京都渋谷区渋谷2-8-7
青山宮野ビル 電話 03-3498-0571
〒150-0002 FAX 03-3498-8769

科学者の集いにもまた科学万能の時代に、ほのぼのとした人間くささを感じた貴重な会合でした。(村田)